

機関拠点型基幹研究プロジェクト
「フォーラム型人類文化アーカイブズにもとづく持続発展型人文科学研究の推進」基本計画

1. プロジェクトの概要

本プロジェクトの目的は、グローバル化や環境変動の影響により地球規模で急速に進んでいる人類文化の変容の動態を解明し、その未来像を探究するための人文科学研究基盤を確立することである。

本館は、19 世紀末から 21 世紀の現在にまで至る世界の諸民族の文化、社会に関する学術資料（約 35 万点の標本資料と約 7 万点の映像・音響資料、約 70 点の文献図書資料）を収集、保存、管理し、それらが文化人類学ならびに関連諸分野の研究に資するための基盤整備を行い、大学共同利用機関としての責務を果たしてきた。また、これらの学術基盤は研究者のみに閉じられたものではなく、中期計画第 2 期に実施した常設展示の新構築事業、同第 3 期に実施したフォーラム型情報ミュージアムプロジェクトを通し、研究者コミュニティ、研究対象となってきた現地社会、研究成果の受け手である一般社会の間にあった一方向的な従来の関係を批判的に検証、刷新し、三者が相互に交流し協働する環境を構築してきた。

本プロジェクトでは、特に第 3 期中期計画期間中に実施したフォーラム型情報ミュージアムの成果を活かしながら、人文分野における学術基盤を継続的に発展させていくための新たな国際的、学際的人文科学研究のモデルを開発、確立することを第一の目標とする。このために、本館が構築してきた学術基盤を発展させ、その共同利用をより推進させるための人類文化アーカイブズを構築し、それにもとづく持続発展 型人文科学研究を推進する。本館の強みである 20 世紀後半を中心とした世界諸地域の人類文化に関する学術資料や研究の蓄積を活かし、地球規模で生じている人 類文化の変容を解明し、将来的な人類社会のありようを持続的に探究していく。

2. プロジェクトの統括、運営体制

全体計画と各プロジェクトを推進するための中核組織として、「フォーラム型人類文化アーカイブズ委員会を設置し新規プロジェクトの審査や計画変更の可否を審議する決定機関」とともに、各プロジェクトの進捗や予算執行状況の把握、フォーラム型プロジェクト全体でとりくむ事業についての提案や審議を行う。

同委員会の委員長、代表（プログラム・オフィサーに相当）は、研究担当副館長及び研究部長・センター長が兼務することにより、館長および部長会議に直結した連絡体制をとり、館長の強いリーダーシップを発揮した運営を実施する。

フォーラム型情報ミュージアム委員会の運営、プロジェクト全体および開発型、強化型各プロジェクトの予算管理、進捗状況の把握については、研究協力課共同利用係が所掌し、専従の係員をあて、事務面での運営、支援を行う。

5. 達成目標

- ・各プロジェクトは人類文化アーカイブズとしての学術資料データベースをオンライン公開する。
- ・各プロジェクトは人類文化アーカイブズの構築の過程、および人類文化アーカイブズを活用した共同研究を実施し、その成果を学術論文、学術図書、一般図書で公開する。

7. ロードマップ

年 度	取 組 内 容
令和 4 年度	基盤型プロジェクト 2 件、推進型プロジェクト 3 件実施する。 第 3 期フォーラム型情報ミュージアムで検証した学術資料を含めたデータベースをフォローアッププログラムによって 3 件以上オンライン公開する。
令和 5 年度	推進型プロジェクト 2 件を公募する 基盤型プロジェクト 2 件、推進型プロジェクト 5 件実施する。 データベースを 3 件以上オンライン公開する。
令和 6 年度	基盤型プロジェクト 2 件、推進型プロジェクト 3 件を公募する 基盤型プロジェクト 4 件、推進型プロジェクト 5 件を実施する。 データベースを 2 件以上オンライン公開する。 プロジェクト全体で中間国際シンポジウムを開催する。
令和 7 年度	推進型プロジェクト 2 件を公募する 基盤型プロジェクト 4 件、推進型プロジェクト 5 件実施する。 データベースを 3 件以上オンライン公開する。
令和 8 年度	推進型プロジェクト 2 件を公募する 基盤型プロジェクト 2 件、推進型プロジェクト 4 件実施する。 データベースを 2 件以上オンライン公開する。
令和 9 年度	基盤型プロジェクト 2 件、推進型プロジェクト 2 件実施する。 プロジェクト全体で総括国際シンポジウムを開催する。 データベースを 2 件以上オンライン公開する。

システム開発、各プロジェクトのデータ管理は、フォーラム型情報ミュージアム委員会の元に設置する「フォーラム型人類文化アーカイブズシステム開発専門部会」が所掌し、情報課情報システム係並びに「フォーラム型人類文化アーカイブズシステム開発専門部会」に付置する「フォーラム型人類文化アーカイブズ編集チーム」による支援を行う。

3. 期待される学術的研究成果とその学術的・社会的意義

- (1) 人類文化に関するオンライン学術情報基盤の構築と国際的共有化
人類の文化資源を継承し、それらにもとづく人文科学研究を持続発展させるための基盤となる人類文化アーカイブズの構築を研究成果の 1 つとする。

本プロジェクトの目的の 1 つは、本館が所蔵する文化資源を中心とする学術資源について国内外の研究者と現地の人びとが参画する国際共同研究を実施して調査をすすめ、その成果を多言語化して地球規模で共有し、共同利用することである。これによって最新の研究成果や研究・教育のための広範かつ高度な文化資源情報を提供することができ、大学における人文科学研究の発展に資する意義を有する。また、大学等での多文化共生や異文化理解に関する高等教育や社会教育を推進するためのツールとして、失われた文化の復興や創造的継承の意義を国際的な視点で理解する教養を涵養し、新たな文化と社会の創出に貢献する社会的意義を有する。

(2) オンライン学術情報基盤を活用した国際共同研究の推進と成果の公開

オンライン学術情報基盤を活用した国際共同研究を推進し、その情報と研究成果を学術論文、学術図書および一般図書によって広く公開、共有することを研究成果の 1 つとする。

オンライン学術情報基盤は、質、量ともに充実した文化資源情報の蓄積・共有・活用が可能となる。その結果、分野を越えた多様な研究者や文化の担い手である現地社会の人びとの参画を促し、特定の文化資源や関連テーマに関して地球規模での学際的比較研究やフォーラム型の協働研究を実施することも可能となる。こうした国際共同研究を本館が主導し、グローバル化と環境変動が進む地球上の人類文化のあり方をともに考える空間としての学術と社会のフォーラムを構築し、世界の人類諸集団の相互の共生のあり方を提唱する持続発展型人文科学研究のモデルとしての「グローバル人間共生科学」を創成する学術的意義を有する。

4. 若手研究育成への取組み

本館の機関研究員の制度を活用し、若手研究者を本プロジェクトの運営に参画させることにより、研究事業の進め方や著作権管理等に関するノウハウについて研鑽を積ませる。

各プロジェクトには、代表者、プロジェクトメンバーともに若手研究者の参加を奨励し、関係するシンポジウムやワークショップ、共同研究に参加させることでの育成をはかる。

また、総合研究大学院大学の RA の制度を活用し、民族誌データを含めた学術資料調査、精査大学院博士課程の学生に従事させ、自身が調査している国や地域、分野を含めた学術資料の扱いについての実践知を習得させる。